


ディベートクラブ
「たま。」 presents 

ひげねこ教授の 
「反駁」入門
～一立形式編～

たま、目つきを変えて
どうしたんじゃ!?



反駁をしたいと、いきり
たってるみたいです。

1、反駁を考えよう。

1、メリット(デメリット)へのアタック(否定1反・肯定1反)とは？

教授！！相手のメリットやデメリットへの**反駁**って何をやればいいんですかっ！？



まあ、落ち着きなさい。**反駁**はのう、一言で言うと、メリットやデメリットの発生を否定する事じゃな。
↓の図を見てくれ。否定一反でいうと、斜線になっているところの議論を否定するのじゃ。

肯定側 立論	質疑	否定側 第1反駁	肯定側 第1反駁	否定側 第2反駁	肯定側 第2反駁
(M) ←		(反駁)			

2、反駁の考え方。

教授！！それは言われずとも、多分、皆分かってますよ！
どうやって**反駁**をすればいいんですかっ！？



うむ。**反駁**を考える際には次の**3つの事**を考えるのじゃ。



1 論証に不備はないか。

主張

根拠

←図を見てください。相手のMの**主張**に**根拠**がついています¹。

1つ目はこの**主張**←**根拠**の論証の足りない所を突くことです。

¹ **主張**と**根拠**に関しては、「競技ディベート入門」「立論作り入門」を参照のこと。

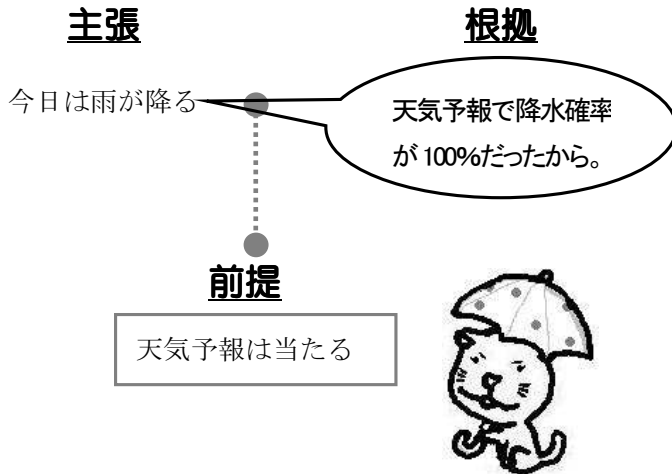
(ダウトをかけると言ったりします。)

主張←根拠と書きましたが、実はこの「←」ただの「←」ではありません。

名前を「前提」と言って、主張と根拠のつながりを説明する文章のことを指します。

これが論証に不備があるかどうか確認するキーになります。

(例)



●論証の不備の見つけ方●

①根拠がない/根拠自体が怪しい。

根拠になる事例が少ない、
海外の例など。

②前提が間違っている。

他の合理的説明ができるかどうか。
例)天気予報は統計的に80%しか
あたっていない。

③主張と前提がつながっていない。

前提で使っていた言葉と主張の
言葉の意味が違っているなど。

④根拠と前提がつながっていない。

前提で使っていた言葉と根拠の
言葉の意味が違っているなど。

●「前提」は省略されている場合もあるので、注意しましょう！

●実際に、スピーチでダウトをかける時は、

「根拠がありません。」「～の証明がありません。」といった言い回しになります。

2  反対の証明(反証)ができないか。

2つ目は「反証する」です。

相手が「主張←根拠」で証明している事に対し「主張←根拠」で逆の証明をします。

肯定側 立論	質疑	否定側 第1反駁
主張 ↓ 根拠	←	反対の主張 ↓ 根拠

反駁①「ダウト」と反駁②「反証する」を同時にやると、相手に効果的に反論できます。

このことを「キック&ゴー」と言ったりします。

教授、でもこの図みたいに「主張←根拠」と「反対の主張←根拠」があると、どっちも理由があるから、どちらが正しいか分かんなくなっちゃいますね…。

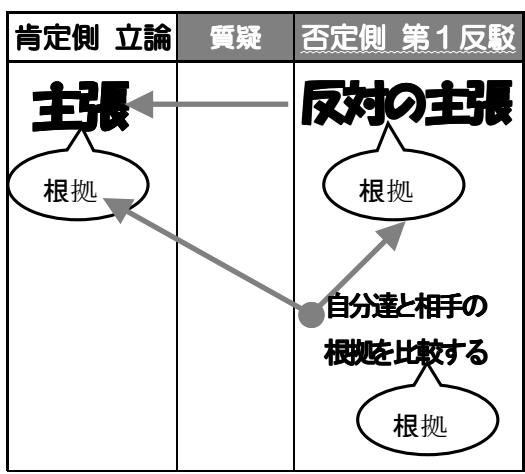


良い所に気がついたのう。そこで次の3つ目の視点が大事になるのじゃ。

3 どちらの根拠が優っているか(優位性)。

3つ目は「優位性をつける」です。直接の反論ではないですが、肯定・否定どちらの主張が正しいのか決着をつける上で、非常に重要な議論です。

ダウトがかけられないときや、ダウトが弱い時など、反証をした上で、相手と自分の根拠を比較して、自分達の方が優っている根拠を説明します。



- 優位性をつけるポイント●
- ・資料の年代の新しさ
 - ・根拠の詳しさ
 - ・著者の肩書き・・・など

●実際のスピーチでは、「相手の資料は〇〇なのに対し、我々の資料は××なので、△△の点で我々の根拠の方が優っています。」といった感じです。

「主張←根拠」が対立した時に、自分達の「主張←根拠」が正しい事を、根拠をつけて主張するという事なんです！

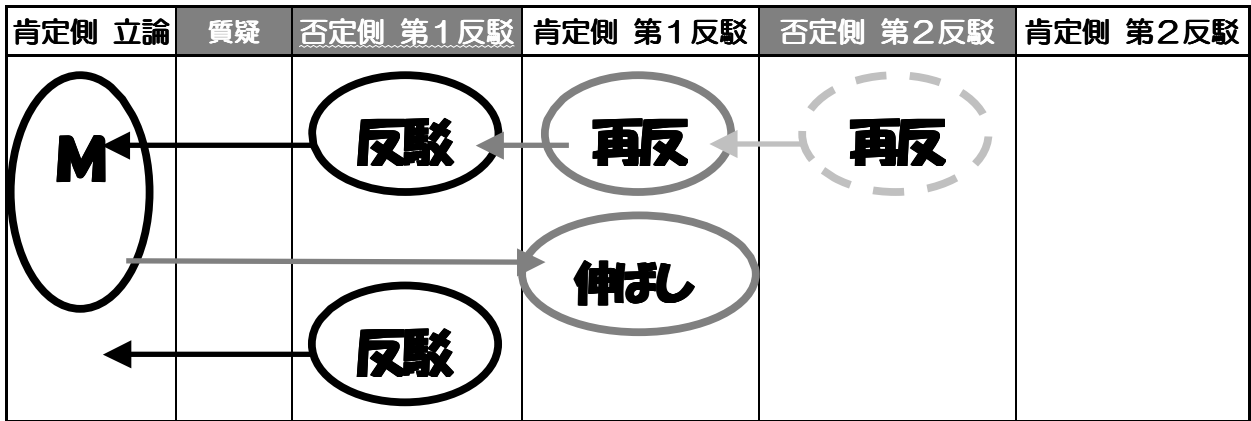


3、メリット(デメリット)の再反駁(肯定1反・否定2反・肯定2反)とは？

教授！！じゃあ、**再反駁**って何をやれば
いいんですかっ！？



再反駁の目的は平たく言うと、メリットが発生するために必要な議論を残すという事じゃ。**攻撃側**の場合はメリットが発生しなくなるために必要な議論を残すのじゃ



4、再反駁の考え方

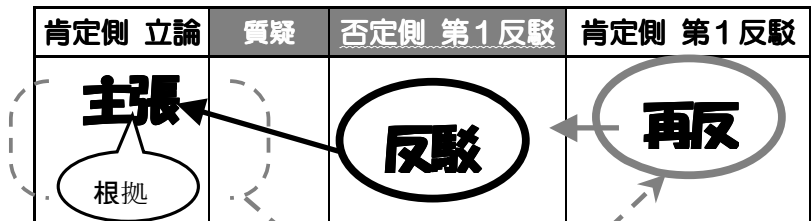


再反駁を考える際には次の4つの事を考えるのじゃ。



1 反駁が当たっているか

まず、相手の反論が自分達の論証（主張←根拠）を否定しているか、チェックします。
主張←根拠が否定されていなければ、相手の反駁があたっていない事を指摘しましょう。



肯定1反の場合は大抵それで大丈夫ですが、第2反駁の場合や**重要な論点**の場合、
 もう一度、自分達の「主張←根拠」を説明してあげましょう。
 このように、自分達の残っている議論を引っ張ることを「伸ばし (extend)」と言います。



反証だけされた時

相手の反論で反証だけされて、自分達の論証（主張←根拠）自体は否定されていないとき

- 1) ①で述べたように「ひっぱり」をまず、やりましょう！
- 2) 次に反駁の③で説明した、「優位性をつける」をやりましょう！



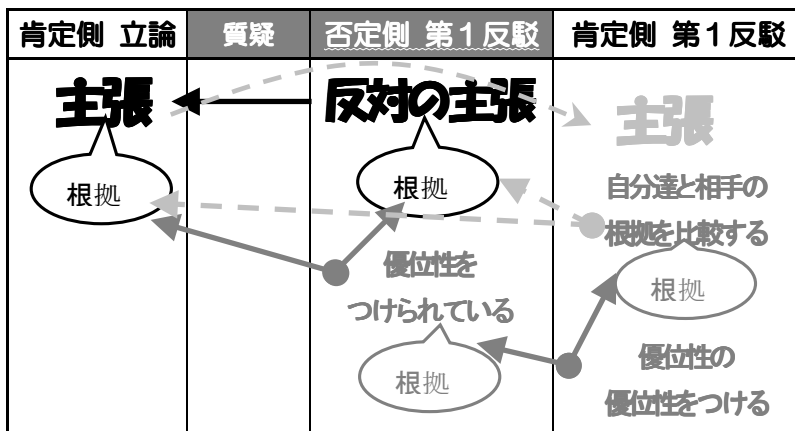
優位性をつけられた時

とりあえず、①と②をやりましょう。

その上で、「相手の優位性」と「自分の優位性」を比べて、「優位性の優位性をつけ」ます。

例) 年代より根拠で比べるべきだ

肩書きより年代で比べるべきだ 等…





4 論証が完全に不備だった時…

相手から、論証の不備を指摘されて、**再反駁の ①**に当てはまらなかった時、それを否定する事ができればいいですが、それを否定できなかつたとき、それは、完全に論証不足です。1反になってから立論の主張の根拠を追加することは**新しい議論 (New Argument)** というルール違反になってしまうので、その時は、その論点を捨てるしかありません。

その場合、必ず、試合の後に論証を完璧にできるよう**証拠資料の差し替え**等を行いましょ！！

5.「まとめる」 否定側第2反駁・肯定側第2反駁

第2反駁はディベートの試合における最後のスピーチであり、そのスピーチを聞いた後に、ジャッジはどちらの勝ちかを判断します。

反論の応酬の末に、メリットとデメリットが最終的にどれくらい残ったのか、「**まとめ**」をする役割があります。

それには、現状の問題がこれだけ残って、それが解決して、重要という**三要素**がどうなったのかを説明することが重要です。よって、メリットで言うと、

- **内因性**の「**問題がある**」という論証（主張←根拠）、
- **解決性**の「**↑の問題が解決する**」という論証（主張←根拠）
- **重要性**の「**問題の解決は重要である**」という論証（主張←根拠）

…という3つの論証が残っているかどうか、第2反駁は必ず触れてください。

反駁の論点になっている場合はもちろん、反駁がない場合でも、必ず、**のばす (extend)** ようにしましょう！

同様に、相手のデメリットの3要素がどうなったのかにも必ず触れましょう！

² 詳しくは、「ひげねこ教授の立論作り入門」を参照してください♪

2、反駁を文章化してみよう。

1.構成～反駁の四拍子!!!!



それでは、反駁を文章化するときの注意点などを話していこうか。

反駁を言葉にする際に、この4つを抑えると良いという「反駁の四拍子」を説明します。



1

引用 「彼らは～と言っていましたか、」

- 相手のどこに反駁をするのか明確にするため、相手の言葉やラベルを引用します。
- 反駁が何点かある場合は「ここに〇点反駁します。」と言いましょ。



2

主張 「それは違います。／～です。」など…

- 言いたいことです。
- 反駁が何点かある場合は、主張する前に、「〇点目、」と言いましょ。



3

根拠 「なぜなら～だからです。」など…

- 主張の根拠です。証拠資料はこの後に引用しましょ。
- 主張←根拠に、前提などの補足の説明が必要だと思ったら、資料の引用前、もしくは後に言いましょ。
- 「優位性」をつける時は資料を引用した後にやいましょ。



4

結論 「よって、～～です。」など…

- この反駁の結果、相手のメリットやデメリット、試合がどうなるのか、この反駁の影響を説明しましょ。
- 例えば、解決性への反駁なら、「よって、Pを導入しても問題は解決しません」等
- 影響からみた反駁に関しては、後ほど説明するので、それも参照してください。

2.反駁シート(ブリーフ)を作ろう!

同じ論題をある期間続けてディベートしていると、同じような議論に出くわす事が多々あります。

そんな時、議論の内容ごとに反駁の原稿を用意しておくとは非常に便利です。

この反駁の原稿のことを**反駁シート (ブリーフ)** と言います。

●反駁シート (ブリーフ) を使う時の注意●

- ・ 同じ内容の議論とはいえ、試合毎に、微妙に使われているニュアンスが違ったりします。なので、作ったブリーフは棒読みするのではなく、**試合毎に、適切な言い返し**にして使いましょう!!

※↓はダウト&反証&優位性の例です。

学校名・パート・番号

反駁シートの例。

作った日付・名前

黒猫高校ディベート部

2009年6月27日作成

否定側第一反駁

大月クロベエ

No.3

VS,(内因性)2回の審議は無駄。

タイトル

引用

- ・ 彼らは_____と書いていたが、ここは2点反駁します。
 - ・ 1点目、彼らは、同じ内容を2度審議していると言っているだけで、それが無意味だという根拠を述べていません。
 - ・ 2点目、実際は、無意味ではありません。
- なぜなら、内容は同じでも、もう一回審議することでミスする危険が減るからです。

主張

根拠

証拠資料を引用します。

出典は、メカネ大学教授 黒猫たま夫「二院制もサイコー!!」2009年より引用開始、

参議院と衆議院が同じ内容審議してるからって、無駄だっていう人がいるけどね、

そりゃ、あんた間違いだよ。内容は同じでも2回審議すれば、それだけ、ミスする

危険も減るんだよ。実際、昔は2回審議して修正されることも何回かあったからね。

内容が同じでも、もう一回審議を通ったってことはそれだけ、しっかりした法律だ

っていう証拠なんだよ。引用終了。

肯定側の資料では、一回の審議の例だけで無駄だと言っているのに対し、我々の資料では、実際にミスが何回か修正されたと言っているの、我々の根拠の方が回数で優っています。よって、現状のまままで問題はありせん。

結論

優位性



デイバート
クラブ
たま。

東京都 国分寺市 を中心に、「多摩地域」の社会人、学生を中心に
毎月1回 第2土曜を 基本に 活動中!!

デイバートクラブ「たま。」ブログ
http://blog.livedoor.jp/kunitachi_debate/



©Kenji Takeda 2009, All rights reserved